

# 新年



西条市長  
伊藤宏太郎

新年明けまして、おめでとうございます。謹んで初春のご祝詞を申し上げますとともに、皆様のご健勝と限りないご清福を、心からお祈り申し上げます。

さて、年頭にあたり昨年を顧みますと、3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命が失われるなど、未曾有の国難に直面しました。被災された皆様には、改めてお見舞いを申し上げます。

そのような中、市民の皆様が心一つにして、いち早く被災地へ向けた支援活動が行われ、9月に襲来した台風12号においては、救出者保護に地元自治会が立ち上がるなど、遺憾なく発揮された「市民力」に心強さを覚えました。

一方、世界人口が70億人を突破し、今後ますます食料不足・水不足の深刻化が予想される中、「食と農」をテーマに農業の総合6次産業化を提唱してきた当市が、日本経済団体連合会が進める「未来都市モデルプロジェクト」において、農業分野では全国で唯一の行政パートナーに選ばれ、「西条農業革新都市」を本格的に始動することができました。

人間にとり生命産業である農業の振興に、「攻め」の姿勢で取り組み、高品質で安全・安心な食料供給・販路拡大に努めるとともに、当市の「水・食」と連携した産業観光などの発展もめざしてまいります。

また、東予港につきましては、念願であった防波堤整備が事業化し、物流と防災の機能向上に向けての大きな一歩が踏み出されたところであり、今後一日も早い完成に向けて努力してまいります。

さらに、ベトナム国フエ市における、当市の「12歳教育推進事業」をモデルとした新たな防災教育プログラムの構築、中国保定市訪問による友好交流の促進など、成長著しい東アジアとのつながりが深まる中、今後は地場産品の市場開拓やインバウンド観光の推進など、より幅広い連携も視野に入れた交流を図ってまいります。これらの成果は、市民の皆様が「チーム西条」として「西条の元氣アップ」に取り組んできたことによるものであり、ここに改めて、皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、昨今の歴史的な円高の進行や海外経済の減速、エネルギー戦略の見直しやTPP参加の是非など、地域経済を取り巻く環境が不透明な中、当市においても、財政面での一層の厳しさが懸念されます。

しかしながら、こうした状況下においても、当市の恵まれたフィールドを活かし、知恵と工夫をもって「人、もの、情報が集う魅力あるまちづくり」を積極的に展開していくことが重要であると考えます。こうしたまちづくり戦略のもと、地域経済の持続的発展、市民の安全・安心の確保、働く女性と子育て支援の充実などに、スピード感とさらなるチャレンジの姿勢をもって取り組み「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現につなげてまいります。本年も、どうかこれまで以上のご支援をお願い申し上げますとともに、皆様方の益々のご多幸をお祈り申し上げ、年頭のごあいさついたします。

平成二十四年元旦